

2017年度

# 2017年度 自己点検・評価報告書

青森明の星短期大学

## ■目次

●保育専攻	01
●コミュニティ福祉専攻	02
●教育支援部	03
●教育事業部	04
●学生支援部	05
●入試広報センター	06
●キャリア支援センター	07
●総務課	08
●教務課	09
●学生課	10
●入試広報課	11
●図書館	12
●明の星学園生涯学習センター	13
●青森明の星短期大学国際交流センター	14
●地域連携センター	15

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 卒後支援プログラムの充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホーム・カミングディーの開催</li> <li>・「卒業生交流コーナー」の開設</li> <li>・講演会・ワークショップの開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホーム・カミングディーとして、今年度は県内新卒者激励会を実施した。</li> <li>・卒業生交流コーナーを学生祭で設置し、卒業生からの意見聴取及び教員、在学生との交流を図った。</li> <li>・講演会として、卒業生2名を外部講師として招いた。(保育実習指導Ⅲ)</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新卒者激励会の参加者数(教員、新卒者)を増やす。</li> <li>・卒業生交流として、教員または在学生との情報交換をより一層充実させる。</li> <li>・卒業生が外部講師として来学する機会をより一層充実させる。</li> </ul>
2. 子育て支援活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「遊びの広場」の開設</li> <li>・「子育て・発達相談窓口」の開設</li> <li>・造形展の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の保育園や地域の幼児を対象にした「遊びの広場」を学内外で開設したが、各種相談窓口の開設は出来なかった。</li> <li>・「しんまちキャンパス」にて造形展を開催し、地域の子ども達に学生の授業成果を披露した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な開設を目指し、未満児とその保護者を対象としたプログラムの充実を図る。</li> <li>・各種相談窓口の開設を目指す。</li> <li>・会場や開催時期の検討が必要だが、今後も継続していく。</li> </ul>
3. 学生の保育力・教育力向上のための取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣保育施設での出前講座の実施</li> <li>・ボランティア、講演会等への参加の推奨</li> <li>・各種検定試験の受験機会の提供及び周知</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣保育園で出前講座を実施した。</li> <li>・学生に周知する時間を設け、各種ボランティアへの参加や「あおり検定」の受験を推奨した。</li> <li>・表現力・感性を高める一助とし、演劇や音楽、ダンス等のコンサートへの情報を適宜提供した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出前講座の周知に努め、実施回数を増やす。</li> <li>・学生の保育・教育力を高めるための取組みを計画的及び継続的に行う。</li> </ul>
4. 各種実習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドブックの改訂・製本</li> <li>・新保育所保育指針等(平成30年度より適用)に関する研修会の実施</li> <li>・実習指導内容及び指導法の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドブックの内容の見直し及び改善を行い、改訂版を発行した。</li> <li>・実習指導の質の更なる向上を目指し、専攻内で研修会を実施した。</li> <li>・適宜、実習指導内容の精査を行い、実習指導計画・内容の最適化に努めた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドブックの活用を積極的に行う。</li> <li>・新保育所保育指針等の改訂ポイントに関する研修会を継続的に実施する。</li> <li>・実習指導内容・方法の振返りを行い、学生の資質向上に向けた実習指導の改善に取り組む。</li> </ul>

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

#### 自己点検評価委員会からの評価

付属幼稚園との協働事業も含め、現場と養成校の協働により、今後ますます事業の内容と質を充実させて欲しい。

2018年度からの指針改定による現場のニーズに応え、必要な活動を展開できるよう検討していく。

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. コミュニティ福祉専攻の指導体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験合格に向けての指導体制の確立。(介護福祉コース)</li> <li>・学生個々の希望・方向性に対応した指導体制の確立。(ビジネスコース)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国家試験日までに関係授業修了のカリキュラムを実施。模擬試験を2回受け、客観的データも得られた。</li> <li>・限られた授業科目の中で、学生が望む公務員、簿記、ICT学習、インバウンド学習等、幅広い学習を実施した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬試験のデータや本試験の結果も踏まえ、合格率100%を目指したい。</li> <li>・次年度に向け、科目の新設を行ったが、完成年度でもある次年度は、更なる改善が必要である。</li> </ul>
2. 社会人基礎力の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2016年度卒業生の集計データから課題抽出を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習評価表の社会人基礎力16項目についてデータ集計を行った。その内、比較的评价が低かった項目に関して、授業に反映させ、改善を図った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も社会人基礎力に関して集計を行い、活用していきたい。</li> </ul>
3. リカレント教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生祭でのリカレントのみならず、卒業生個々への対応に関しても記録を取り情報共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生祭時に開催したリカレントの他に、個別対応等を頻繁に実施。全て記録として保存している。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後もこの体制を継続する。但し、リカレントの案内方法について検討が必要。</li> </ul>
4. 感染症予防の講座の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児向けの手洗い講座を、絵本を基にしたホワイトボードシアターと実演にて行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短大付属幼稚園園児を対象に実施。ホワイトボードシアターにより分かりやすく解説をした後、実演を行った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児向けのより分かりやすい言葉遣いや工夫が必要。</li> </ul>

※評価 = 「達成 : A」「概ね達成 : B」「やや不十分 : C」「不十分 : D」

#### 自己点検評価委員会からの評価

社会人基礎力調査について、学内に実施の経過と報告を公表されたい。

ビジネスコースのカリキュラム構成および教員の指導体制を、専攻内で計画および実施していくようにしてほしい。

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 3つのポリシーと学修成果の関連性の明確化	<ul style="list-style-type: none"> <li>DP とカリキュラムマップの検討を行い、DP のルーブリック評価を整備する。</li> <li>各教科のシラバスを DP に関連付け、シラバスの形式変更を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>DP とカリキュラムマップおよびカリキュラムツリーおよびルーブリック評価の検討を行った。</li> <li>各教科のシラバスに DP を関連付けた項目を検討し提案したが、実施に至らなかった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>DP ・カリキュラムマップ ・カリキュラムツリーの継続検討を行う。</li> <li>シラバスに DP を反映した項目を追加し、シラバスの形式変更を実施する。</li> </ul>
2. アクティブ・ラーニングの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクティブ・ラーニング(AL)を取り入れた授業計画立案・実施および実施報告の機会を設ける。</li> <li>AL 教室の活用を検討する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修会の実施はしていないが、外部の研修会への参加をした。AL 活用を取り入れた授業改善計画の提出により、AL の更なる活用を啓蒙する。</li> <li>教室の活用は、限られた教員ではあるが活用されている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当する教科におけるアクティブ・ラーニング実施状況をアンケート形式で調査する。</li> <li>教育事業部と連携し、FDを実施する。</li> <li>AL 教室の活用促進のため、教室の使用方法について講習会を設ける。</li> </ul>
3. カリキュラム検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域連携・参加型の教育課程を充実させる。</li> <li>ビジネス関連科目の充実を図る。</li> <li>新設科目・新設資格の検討をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスコースの科目の拡充を行った。</li> <li>教職再課程認定に伴う保育専攻カリキュラムの見直し、「在宅保育」科目新設、ベビーシッター資格養成校申請、放送大学との協定業務を行った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネスコースの科目を更に充実させる。</li> <li>教職再課程認定に伴い、保育士科目の見直しを行う。</li> <li>+αの資格の検討を行う。</li> </ul>
4. 教育課程のルーブリック評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジネス実務士および情報処理士のルーブリック評価表を作成する。</li> <li>主要資格のルーブリック評価の原案を練る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主要資格のルーブリック評価の原案作成にとどまり、意見交換や修正等に至っていない。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程および主要資格のルーブリックについて、定期的に検討する時間を設け、活用結びつける。</li> </ul>
5. 学生管理システムおよび学生振り返りシステムの活用啓蒙	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体指導の機会を設け、データの蓄積を啓蒙する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各専攻・各科目担当よりポートフォリオへの入力啓蒙がなされた。年度初め、学期の中間、学期末に全体指導を行う機会を設けた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続してポートフォリオ活用の啓蒙をする。各科目のレポート提出等での活用に加え、全体指導を定期的に行う機会を設ける。</li> </ul>

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

3つのポリシー、その他ルーブリック等について検討した結果を公表し、学内で実用化されたい。

教育課程のルーブリック評価については、一部のコースの主要資格に留まらず、対象を広げてほしい。

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. アクティブ・ラーニング室の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業での活用を推進する。</li> <li>・FD・SD研修での活用を推進する。</li> <li>・実践発表を公開し、実用と技術向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一部授業において実施</li> <li>・FD, SDでの活用には至らなかった。</li> <li>・実践発表公開は学校訪問時に実施。</li> </ul>	B	この項目を共同FD推進に変更する。
2. 高大連携の継続	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森中央高校との連携を強化する。</li> <li>・青森商業高校との連携を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森中央高校との連携授業実施</li> <li>・青森商業高校との連携授業実施</li> </ul>	A	青森中央高校・青森商業高校との連携内容の検討。
3. 科研費等の助成研究申請の増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公募の周知をする。</li> <li>・共同研究を推奨する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公募周知を実施</li> <li>・共同研究を推奨した。</li> </ul>	B	公募周知を継続する。
4. 教員免許状更新講習会の運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・申込受付を検討する。</li> <li>・申し込み状況を把握し課題抽出をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・申し込み殺到時に職員数が不足。</li> <li>・講座スタッフを確保する(後片付け等)。</li> </ul>	A	運営スタッフを確保し、負担を軽減する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

共同FD等に留まらず、さらなるFD・SDの企画の見通しを周知し、内容を充実させてほしい。

高大連携に関しては、各専攻との連携を密に進めてほしい。

## 部 署 名 ⑤ 学生支援部

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 学友会活動の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学友会執行委員のための研修会の実施。</li> <li>・年間行事の企画（体育祭、学生祭、クリスマスの集い）の見直しと改善。</li> <li>・サークル活動への支援。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学友会執行委員と各サークルの代表者を対象にリーダーズ研修会を実施した。</li> <li>・年間行事の企画については滞りなく実施した。</li> <li>・学生祭にサークル活動の成果を発表することができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダーズ研修会は今年度初めて実施した。次年度も引き続き実施し、1、2年生の執行委員の親睦を深め、体制を強化していく。</li> <li>・学生祭については活動支援のための内規を作成し、活動の充実・周知を図る。</li> <li>・学友会執行委員と学生、各サークル長との連絡体制を確立する。</li> </ul>
2. 学生支援のための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生生活および学修行動に関わるアンケート調査の実施と結果の分析。</li> <li>・学生相談室との連携。</li> <li>・奨学制度の整備。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学生を対象に「学修行動に関わるアンケート」と「学生満足度調査」を実施し、調査結果についてまとめた。</li> <li>・今年度相談室を利用した学生は60数名いた。相談内容は、主に進路、人間関係、学生生活で、ほぼ改善が見られた。</li> <li>・奨学制度を希望する学生は概ね採用となった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果についてはデータ集積し、環境整備をしていく。</li> <li>・ケアが必要な学生については引き続き相談室との連携を取り、情報を共有し対応策を練る。</li> <li>・返済義務がある奨学金について、返済方法を検討していく。</li> </ul>
3. 課外教育・活動の運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課外教育（オリエンテーション、全学研修会）の企画・運営に関する見直しと改善。</li> <li>・課外活動（ボランティア活動）の情報提供。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生活安全セミナー」では講話と実践を実施し、防犯、SNSに関する注意喚起を行った。</li> <li>・今年度のボランティア活動は、参加人数253人、ボランティアの受け入れ先は53事業所で、多岐に亘っている。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規の課外教育の企画を検討していく。</li> <li>・ボランティアに関する掲示版の活用を図り、地域貢献に関する情報を提供していく。</li> </ul>

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

満足度調査の結果を公表し、改善の実施につなげてほしい。

学友会活動について十分なサポートを継続してほしい。

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 高校訪問の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内校中心に 80 校、県外校 20 校 (岩手・秋田) を出来るだけ多く訪問</li> <li>・特に重点校 (高大連携校－青中央・青商・中里) 青森市内高・在学生出身校・地域重点校 (下北地区) に 4 回以上訪問</li> </ul>	重点校・重点地区に対してはオープンキャンパスや入学試験等の日程を見計らってタイミングを考え、多くの教員の協力も得て目標回数を超えて訪問できた。県外 (岩手・秋田) について年度当初の訪問回数はより必要であった。	A	重点校・重点地区に対してはさらに継続していく。(今年度を踏まえ、さらに教員の協力も得たい。) 左記反省に基づき、県外 (岩手・秋田) については訪問回数を増やし強化する。
2. オープンキャンパスの 順次改善・刷新	<ul style="list-style-type: none"> <li>・何度も続けて訪問してもらえるように、逐次魅力的な内容に反省・改善して行く</li> <li>・出来るだけ本学学生の声が伝わるような仕掛けを企画・実施</li> </ul>	出来るだけ、参加者が楽しく身近に感じられるオープンキャンパスに改善した。また、時期や受験生の動向に合わせるべく、開催の内容や説明の仕方に特徴を持たせるように企画運営した。今年度の改善のポイントとしてあげた参加者が身近に感じられるように学生主体で実施する場面を多く取り入れた。	B	今年度の各々の回の反省をもとに参加しやすい、参加したくなる運営内容に向けてさらに改善。その為にもよりその回の特徴を際立たせたい (説明内容や専攻・コース毎の体験授業等)。学生の主体的関わりをさらに増加させたい。学生エキスパートも育成したい。
3. 重点地区単独学校説明 会の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下北地区を地域募集重点地区として本学単独学校説明会 (出張オープンキャンパス) を企画・実施</li> </ul>	むつ市で 7 月初めに実施。参加学生達 (本学) の協力体制がうまく機能した。参加者募集では後輩達への働きかけ、実施運営にも主体的に関わったことが参加者へ良い印象として伝わっていた。	A	今年度の運営の利点をとらえ、さらに学生の協力体制をより大きな力として活用し、実施する。
4. 函館地区共同募集の実 施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青森市内の私立大学・短大と連携協力し新幹線開通で身近になった函館の学生達に、より積極的に募集活動を展開</li> </ul>	6 月に実施したが、募集・開催場所等にも課題があったが、道南生徒の青森県へ進学する意識はかなり低い。本学だけではなく、青森県への進学全般に言える。青森県へ進学する選択肢があると知らしめるところから粘り強く働きかける努力が必要。	B	最近いっくら反応が出て来るようになってきたが、左記より場所の選定等様々見直している。来年度は公立大・保健大の参加や、青森市を筆頭に産官学の協力体制で実施予定。

※評価 = 「達成 : A」「概ね達成 : B」「やや不十分 : C」「不十分 : D」

#### 自己点検評価委員会からの評価

高校ごとの訪問履歴についてデータベースを作成し、それに基づいた広報活動を実施してほしい。

オープンキャンパスで実施しているアンケート調査の結果について公表し、その結果を改善のために生かしてほしい。

## 部署名 ⑦ キャリア支援センター

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. キャリア支援の充実 ・2年間を見通したキャリア教育の実践	・キャリアサポートⅠ・Ⅱの授業内容の精選	今年度はキャリアサポートⅠ・Ⅱの学年ごとの指導内容の区別もはっきりでき、講話内容や講師の精選につとめた結果、学生の意識改革につながる授業となった。	A	・今年度の実施内容を継続するとともに、更なる講話内容及び講師の精選に努め、キャリア教育の充実につなげる。
2. 企業説明会の実施 ・希望企業への早期決定に向けての指導	・実績企業および新規希望事業所への就職指導の徹底を図る	今年度も合同企業説明会を6月に実施することができ、就職の早期決定に結びつく大変有意義なものとなった。 一般企業希望の意思表示が遅かった。	B	・合同企業説明会は大変有意義であり、学生からの要望も多く今後も継続する。 ・新規キャリアビジネスコースの学生の企業開拓に努力する。
3. マナー教育の充実 ・キャリア支援ハンドブックの活用	・キャリア支援関連授業の中で、ビジネスマナーの指導を図る	キャリアサポートⅠ・Ⅱの授業を活用し、ビジネスマナーの指導を図ったが、担当する時間不足から指導内容の徹底までには至らなかった。	B	・担当時間での講話(指導)内容の精選を図り、学生が知るべき基本的ビジネスマナーの徹底を図る。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

各専攻との連携を綿密にしてほしい。求人票をデータベース化し、ネットから検索できるようにしてほしい。

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 会計業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的事項をマニュアル化し、会計ソフト処理の活用範囲の拡大</li> <li>・引継ぎ等を円滑に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内部監査の際に学納金処理についての、事務フローチャートを作成し、マニュアル化を図った。会計ソフト処理は、各部署の経費の抽出、書出などを行い、予算管理や予算編成時に活用した。</li> <li>・通常業務では、情報共有、ダブルチェックを行い業務の共有と正確さをめざした。今後の期末監査等においては、伝票、計算書など特筆すべき事項にコメントをするなどし、引継ぎ業務を円滑に行うよう努める。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会計ソフトを、更に活用し、各部署の予算管理にも役立てる。</li> <li>・更に情報共有及びダブルチェックを行い、関係部署との連携を強化し、業務を円滑にする。</li> </ul>
2. 文書管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・起案等を適切に行い、遺漏のない文書管理をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての業務で起案等を行い、業務を整理し、遺漏のない文書管理に努めたが、課内の起案の内容の熟知までは至らないこともあった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺漏のない文書管理と共に、起案内容の確認及び整理を行う。</li> </ul>

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

会計業務のみに留まらず、他の業務全般についても振り返りを実施してほしい。

情報処理システムの管理・運営に関する事項についても触れてほしい。

2017 年度

部 署 名 ⑨ 教務課

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 履修等管理についての 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補講の掲示を速やかに行うために、各専攻、教育支援部との連携とチェック体制を図る。</li> <li>・履修登録等の確認の迅速化とチェック体制を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各専攻、教育支援部との連携を取りながら、双方で内容のチェックを行い、業務に取り組みことができた。</li> <li>・履修登録等の事務処理作業及び確認作業に時間がかかり、迅速に出来なかった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補講等の掲示を速やかに行うために継続して、各専攻、教育支援部と連携し、チェック体制の強化を図る。</li> <li>・履修登録等の事務処理を円滑に進め、確認作業等の迅速化とチェックを徹底する。</li> </ul>
2. 文書管理についての取 り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文書の作成、整理、保存など管理を徹底する。</li> <li>・文書処理に伴う事務の合理化を目的に、提出期限の遅延が起らないよう合理化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文書管理の取組として、教務に関する文書管理がどこにどのように保存管理されているのか、またその内容の把握に努めた。</li> <li>・官公庁等の調査・報告等の提出期限の遅延が起らないように、文書処理に伴う業務に対して計画を立て、遂行した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文書処理に伴う事務の合理化を図るために、効率よく文書管理できるよう更に取り組む。</li> </ul>

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

履修登録および成績管理に関して、確認作業等をさらに強化してほしい。

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 合同企業説明会及び新卒者激励会の運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加企業（法人）リストの作成（説）</li> <li>各法人への案内（激）</li> <li>当日の運営（両企画）</li> </ul>	<p>合同企業説明会については、参加法人を選び、連絡、当日のために学生には参加が決まった法人から早い時期に学生へ告知をした。</p> <p>また、年度中に課題であった県内・市内保育法人の説明会も企画・実施できた。</p> <p>激励会は2年目ということで、卒業生数も2年間の卒業生を対象に行った。（関東）また、青森市でも実施をした。激励会には同窓会にも参加を頂き、実施した。</p>	A	<p>課題として、日程を年間行事で決めていなかったため、あらかじめ日程を決めておいた。（説明会）</p> <p>激励会は関東の出席率は高かったが、青森市での参加率がもう少し上がるよう検討したい。</p>
2. 奨学金事務作業	<ul style="list-style-type: none"> <li>奨学金元との話し合い</li> <li>学生への適切な指導</li> </ul>	<p>本学独自の奨学金の協定については、昨年度末に1件結んだのみで、今年度は話し合いのレベルにとどまっている法人が3件であった。</p> <p>また、学生への指導に関しては達成できた。（下記）</p>	B	<p>次年度は今年度話し合いを進めてきた法人と協定が結べるようにする。</p> <p>奨学金事務については今年度同様に行いたい。</p>
3. 学生支援のための事務室	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な会話</li> </ul>	<p>上記1. 2. 等を行うに当たり、最も力を入れた項目になる。学生とのコミュニケーションを取ることで、提出物締切、パソコン入力（奨学金関係）締切に遅れる学生は一人もいなかった。</p>	A	<p>継続が必要な内容であるので、継続実施する。</p>

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

#### 自己点検評価委員会からの評価

合同企業説明会及び新卒者激励会の企画および実施については、各専攻と連携しながら推進していく必要がある。

学生会活動など、学生の活動をさらにサポートしてほしい。

2017 年度

部 署 名 ⑪ 入試広報課

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 高校訪問の強化	青森市内の高校および地域重点高校を徹底して訪問し、本学の魅力を伝える。	青森市内の高校および下北地域、五所川原、上北、三沢地域の高校を地域重点高校として訪問回数を増加させ、卒業生の活動状況や本学の活動・授業・行事について広報した。	A	県内高校の訪問回数を全校4回程度に増加させ、本学の魅力の伝達に努める。 県外高校についても、重点地域を設けて訪問や相談会への参加を増加させる。
2. 高校生への募集対策	オープンキャンパス、学校見学会などを通して直接高校生に接して学生募集につなげる	オープンキャンパスに於いては、案内ハガキやサンクスハガキの発送を行い、関心が途切れないように心がけた。 学校見学会においては、出身学生を意見交換に参加させた。	A	オープンキャンパスへの誘導をより密に行う。 学校見学会をもっと多くの高校に来てもらうよう案内していく。
3. 入試業務の分散化	入試広報センター・課ならびに他の部署に入試広報活動を効率よく分散させ学生募集につなげる	広報活動に於いては、HPの内容チェックおよび更新作業を事務組織に分散させた。 専攻を通して高校訪問や相談会等への応援を依頼した。	B	HPの更新を全学的に分散させ、情報が途切れないように心がける。 広報活動の多元化（県内外での活動）に向けて、人員の分散を検討する。

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

入試に関する実施要項等、計画的に事前に周知してほしい。

他大学のホームページも積極的に参考にし、本学のホームページの情報の整理と更新を強化してほしい。

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 図書館企画の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画の見直しと改善。</li> <li>情報発信（短大ブログ、図書館会報等）の強化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は①絵本の読み聞かせ講座②読書感想文コンクール③ブックハンティングを実施した。ブックハンティングでは参加した学生が選定した図書の紹介としてPOPを作成し、図書館で展示した。</li> <li>新着図書案内は掲示板にて定期的に掲載した。また、企画等はブログで発信した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>いずれの企画も学生の参加者が少ないことが課題となった。次年度は新規の企画も視野に入れ、企画・運営・広報（募集方法、開催時期、内容）の見直しを行い、企画の充実を図る。</li> </ul>
2. 図書館利用の推進を図るための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>図書館利用に関するアンケート調査の実施と結果の分析。</li> <li>授業と連携した図書館利用の推進。</li> <li>図書館会報の発行。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学生を対象にアンケート調査を実施し、図書館利用に対する意見、要望を把握できた。</li> <li>授業科目によって担当者より参考図書指定図書の要望があり、コーナーを設けた。これにより、学生利用者が増加した。</li> <li>「図書館だより」第2号を発行した。教職員や学生からの推薦図書や図書館利用状況を記載した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度のアンケート調査結果をふまえ、学生のニーズに応える企画を考えるなどして、図書館利用の促進を図る。</li> <li>利用者増加のため、図書館と授業担当者との連携を強める。</li> <li>図書館だよりの発行を増やし、学内外に発信し、図書館利用の促進に努める。</li> </ul>
3. 地域に密着した図書館作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>近隣の住民を対象にした講座の開催。</li> <li>学外利用者のための図書館広報活動。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>講座の開講は実施できなかった。</li> <li>ホームページやブログ等で広報活動を行った。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域や学外利用者のための広報活動についてはホームページを充実し、情報発信を強化する。また、他大学の取り組みも参考にし、外部利用者への広報を図る。</li> </ul>

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

#### 自己点検評価委員会からの評価

アンケート調査の内容と結果について公表し、結果を改善に具体的につなげてほしい。

図書館の利用促進の一助となるよう、イベント企画や展示企画について、さらに充実させてほしい。

2017年度

部署名 ⑬ 生涯学習センター

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. センター講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「懐かしの歌を歌う」「教員の資質向上対策講座」の2講座を開設する。</li> <li>・講座の周知を工夫する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「懐かしの歌を歌う」「教員の資質向上対策講座」の2講座を開設した。</li> <li>・講座案内をホームページで周知した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「しんまちキャンパス」との連動を図り、「懐かしの歌を歌う」参加者を増員する。</li> </ul>
2. 公開講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八名信夫氏の講演をNPOいのちの教育ネットワークとの協賛で実施する。(青森コンソーシアム)</li> <li>・広報活動を多様に行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八名信夫氏の講演をNPOいのちの教育ネットワークとの協賛で実施した。</li> <li>・ポスターやチラシを計画的に作成し、広報活動に努めた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師依頼を早めに行い、計画的に運営する。</li> </ul>
3. 教育カウンセラー養成講座及び免許状更新講習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の講座・講習を計画通り実施する。</li> <li>・次年度の内容と講師を選定し依頼する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の講座・講習を計画通り実施した。</li> <li>・次年度の内容と講師を選定し依頼した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多数の受講者を受け入れるために、他のスタッフの支援もお願いしながら運営する。</li> </ul>
4. 他市との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・むつ市教委の市民大学の会場提供と講師の依頼と協力をする。</li> <li>・中泊町の「高齢者大学」の会場提供と講師の依頼と協力をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・むつ市教委の市民大学の方が来校し、「かんたん介護」の実習を行った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当者との連絡を密にし、計画的に実施する。</li> </ul>
5. 短大と連携した事務と広報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携センターの事業および履修証明プログラムの事務請負と実施協力をする。</li> <li>・ピアヘルパー、教育カウンセラー補、おもちゃインストラクターの事務を行う。</li> <li>・資格取得のメリットの宣伝・説明をし、学生の受講を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携センターの事業および履修証明プログラムの事務請負と実施協力をした。</li> <li>・ピアヘルパー、おもちゃインストラクターの事務を行った。</li> <li>・資格取得の説明をし、学生の受講を支援した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・託児サービスの希望があった場合には、速やかに対応する。</li> </ul>

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

免許状更新講習等に関しては、ニーズおよび企画について各専攻と連携し、推進してほしい。

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 海外研修・語学研修プログラムの開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外研修および英語圏の語学研修プログラムを複数開発する。</li> <li>・参加者募集の説明会を随時行い、学生の留学への興味・関心を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハワイ (Kapi' olani Community College) の協定校との各種プログラムを継続検討している。</li> <li>・カナダ・アメリカ・オーストラリア・フィリピン・中国での短期・中期・長期語学研修プログラムを準備し、学生への周知を行った。参加希望者は1名であった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協定校とのプログラムの充実を図る。</li> <li>・プログラム内容および適正な費用の語学研修プログラムを精査し、学生の要望に即したプログラム開発および企画を継続していく。</li> <li>・留学に興味のある学生に情報を提供し、適宜アドバイスをしながら、希望に即した留学をサポートする。</li> </ul>
2. 国際交流事業への参加の啓蒙	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内および市内で行われている国際交流事業の周知および学生の参加を啓蒙する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種交流会のポスター掲示を行い、学生への周知を行った。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の他大学での留学生との交流会情報を収集し、本学の学生の参加を呼びかける。</li> <li>・本学主催のイベントに留学生を招いて交流する機会を設ける。</li> </ul>
3. 青森・長春教育芸術文化交流協会の事業活性化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協会総会の計画運営を行い、随時会員募集をして会員の増加を図る。</li> <li>・年間広報紙を魅力あるものにする。</li> <li>・協会と留学生の交流を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三役会議・役員会・総会の計画および実施、広報紙 (第 17 号) の編集・発行を行った。</li> <li>・市長表敬訪問により特別顧問を依頼した。</li> <li>・年会費の徴収・運営を適正に行った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員募集を積極的に行い、協会の活性化につなげる。</li> <li>・会員の研修旅行や会員対象のセミナー等を開催し、会員同士の交流を図る。</li> </ul>

※評価 = 「達成 : A」「概ね達成 : B」「やや不十分 : C」「不十分 : D」

自己点検評価委員会からの評価

年間の事業の計画と実施について、年間スケジュールを学生に見通しやすく周知してほしい。

今年度の計画 (Plan)		実行内容 (Do)	評価 (Check)	次年度への改善点 (Action)
項目	計画の内容			
1. 地域の発展を重層的に支える取組 ①中泊町との連携 ②浪打商店会との連携  ③地元町会との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種行事・イベントに学生が主体的に取り組めるよう支援する。</li> <li>昨年度からの受託研究を継続実施する。</li> <li>浪打商店会との連携に努める。</li> <li>定例役員会に出席し見通しをもって活動を進める。夏祭り、うましあおもり直売市、もちつき大会など、学生に主体的な参加を呼びかける。</li> <li>港町のねぶたの活動への参加・協力、認知症徘徊訓練事業（相馬町）など、学生が協働する機会を作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種行事・イベントに学生が主体的に取り組めるよう支援した。</li> <li>受託研究（高齢者の研究）を継続実施した。</li> <li>浪打商店会の役員会に出席し、見通しをもって連携に努めた。夏祭り、うましあおもり直売市、もちつき大会など、学生に主体的な参加を呼びかけた。</li> <li>港町のねぶたの活動、認知症徘徊訓練事業など、学生が協働する機会を作った。</li> </ul>	A	各種行事・イベントに学生が主体的に取り組めるよう支援に努めたが、行事が重なり参加者が集まりづらくなってきている。ボランティアとして参加者がどうしても集まらないときは、学内ワークスタディーの活用も検討しながら連携の推進を図る。
2. 地元企業・団体との密なる連携の確立 ①地元企業・団体との連携  ②「しんまちキャンパス」の運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元企業・団体との密なる連携に努める。</li> <li>キャリアビジネスコースの授業において、インバウンド、地域ビジネスに関係する地元企業・団体との連携を強化し、実践化を推進する。</li> <li>教育課程、すてらの運営への意見聴取及び評価に努める。</li> <li>「しんまちキャンパス」の計画的な運営や広報に努め、内容の充実を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元企業・団体との密なる連携に努めた。</li> <li>キャリアビジネスコースの授業の中で実践化を図り、地元企業・団体との連携を強化した。</li> <li>すてらの運営に関しては、別組織で適切に運営が行われた。</li> <li>「しんまちキャンパス」の計画的な運営や広報に努め、内容の充実を図った結果、来場者が増加した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元企業・団体との連携を継続し、より一層の充実を図る。</li> <li>「しんまちキャンパス」の計画的な運営や広報に努め、より一層の内容の充実を図る。</li> </ul>
3. 広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>パブリシティ、広報あおもりなどの活用を計画的に図り、効果的な広報活動に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>パブリシティなどの活用を計画的に図り、効果的な広報活動に努めた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>パブリシティなどの活用を計画的に図り、より効果的な広報活動に努める。</li> </ul>

※評価＝「達成：A」「概ね達成：B」「やや不十分：C」「不十分：D」

自己点検評価委員会からの評価

各事業について、成果の検証をしてほしい。